



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

NO-14 2012.7.2

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E-mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

代表就任あいさつ

平和・人権・環境・共生



鹿児島県護憲平和フォーラム 代表 下馬場 学
今回の総会で県護憲平和フォーラム代表に就任することになりました下馬場で。出身単組は鹿児島県教職員組合です。よろしくお願ひします。

大飯原発が稼働しようとして

います。東京電力福島原発事故の原因がまだ究明されず、4号機における燃料棒の処置の見通しも無く、政府が拙速に決めた暫定基準に照らして「安全だ」としているだけであって、何ら根本的な議論・検証のないままの再稼働になっています。まだまだ、原発事故によって故郷を離れざるを得なくなった方々、働く場・生産の手段を奪われた方々の苦悩・「放射能のない福島を返せ!」「安心して暮らせる福島を返せ!」といった福島の人々の思いを寄せなければなりません。ある会合で『東日本大震災』ではなく、『東北地方太平洋沖大震災』と言いたい」「『東北』にこだわりたい」という発言がありました。「戦前の東北は、兵隊と女郎一飢饉の時売られていった娘たち」と

コメを差し出してきた。そして戦後はコメと労働者・自動車部品と電力をおしだしてきた。」正に近代・現代資本主義の矛盾・差別性を象徴している東北に原発事故が起こったこと。そのことの意味を、私たちはきびしく見つめ直さなければならぬし、その意味からも「核と人類は共存できない」ことを厳しく指摘しながら、再稼働には絶対に反対していかなければならないと思います。

原発における大都市・大企業のために地方にリスクを押しつける差別性は、沖縄に在日米軍基地の74%を戦後押しつけ続けてきた事実として、沖縄県民を苦しめ続けてきました。主権国家に他国の軍事基地があることの異常さ、日々事故や事件の恐怖を感じ続ける苦しみに寄り添えない実態。しかしながらそういった住民の思いをよそに「馬毛島に」「硫黄島に」といった軍事強化への動きが加速してきています。

表題の「平和・人権・環境・共生」は日教組の教育実践や組織運動のテーマです。私たちは21世紀を迎えたとき、「戦争の世紀」から「平和の世紀」を創り出すことを目指したはずで。4月の自民党がまとめた「憲法改正案」など憲法をとりまく状況も予断を許しません。厳しい状況はありますが、微力ながら全力で任務にとりくんでいきたと思います。

非核平和行進を熊本県に引継ぐ

—非核・脱原発・被爆者援護の意志を、熊本へ、そして原水禁長崎大会へ—

5月21日に始まった被爆67周年・非核平和行進は、原水禁鹿児島県民会議、原爆被爆者鹿児島県協議会、社民党の三者で、県下一円（奄美ブロックは7月実施）の自治体に非核・被爆者援護・脱原発など平和行政の推進を要請し、6月11日に熊本県へ沖縄からの「タスキ」をリレーしました。

水俣市で行われたタスキの引継ぎ式には、鹿児島県からは原水爆禁止鹿児島県民会議・荒川議長と同じく野呂正和副議長と牟田実事務局次長、社民党県本部からは吉海祐作書記局員、そして熊本県と隣接する北薩ブロック平和運動センターから、三園敏則事務局長、原口武憲事務局次長、佐藤利勝社民党出水総支部幹事長が参加しました。あいにくの雨天となりましたが、野呂副議長の街宣で水俣までの3時間を行進しました。



(引き継ぎ式であいさつする荒川議長)

引継ぎ集会は17時30分から水俣市市役所の玄関前で行われました。最初に熊本県原水禁事務局次長の常松茂記さんから「鹿児島県からのタスキを引き続き、熊本県内でも自治体へ平和に向けたとりくみを要請するための引き継ぎ式を行います」と開会の挨拶あり、続いて原水禁鹿児島県民会議の荒川議長から「沖縄の平和行進を引継ぎ、鹿児島県下の自治体を回り、今日熊本県に引き継ぎます。この平和行進では、被爆者支援・核廃絶・脱原発を自治体においてきてきました。特に川内原発3号機の増設をストップし、1、2号機の再稼働を許さないように、原発30キロ圏内の自治体には強く要請しまし

た。8月の原水禁大会に向けて皆さんの行進が成功裡に終わることを祈ります」と激励。荒川代表からタスキが熊本代表に手渡されました。



(鹿児島から熊本へタスキの手渡し)

鹿児島・熊本両県参加者からの拍手の中、原水禁熊本県協議会の河瀬和典理事長から、「熊本では6月19日から各自治体への申し入れが始まります。鹿児島からの意志をついでがんばります。特に被爆者は高齢化が進み厳しい状況にありますので、被爆者援護を強く自治体に要請したいと思っています。また、平和市長会議の参加要請も大きな柱として取り組みます。しかしながら現在、政府は脱原発から再稼働容認に傾きつつあるように感じられます、我々は原発のない『安心・安全』な社会を目指し、また原発再稼働の動きには皆さんと危機感を共有してたたかいます。今日は雨の中、遠くからお疲れ様です」と決意と激励の挨拶がありました。



(原水禁熊本県協議会河瀬理事長挨拶)

最後に鹿児島県代表団へ参加者から激励の拍手が送られ引き継ぎ式は終了しました。

九州ブロック各県・各地区平和運動交流会が 佐賀県で開催される 《6月16～17日武雄市『京都屋』》

豪雨のため高速道一部通行不能、1日目の夕方会場到着

2012年6月16～17日悪天候の中九州ブロック各県・各地区平和運動交流会が佐賀県武雄市「京都屋」で開催されました。当日鹿児島を早朝8時には出発しましたが、大雨警報が出る中、新幹線も運転見合わせ、高速道路は出発時点で大吉・植木間が通行止め、去年の苦い経験を生かし、栗野ICで降り大口・水俣経由で大牟田まで8時間一般道を走行、「みやま」ICから高速道へ入り、午後5時にやっと会場の京都屋にたどり着きました。初日の会議はすべて終わり18時からの夕食交流からの参加になりました。宮崎県参加者は11時間の行程を経て19時に会場到着になりました。

宮崎・鹿児島両県の参加者はクタクタになっての参加となりましたが、各県紹介の頃にはアルコールも回り元気が出ていました。アルコールの力はスゴイですね！



(全体会風景)

上関原発反対行動から学ぶこと

二日目は、8:10から山口県上関原発の反対運動の祝島のDVD鑑賞から始まりました。このDVDを観て、上関原発建設の「反対」「賛成」で議会も割れ、電力会社や商工会など利権のもとに、島は住民も親戚も分断されながら、「きれいな海、自然を守ること」、それが「いのちを守ること」であると、祝島の女性パワーの皆さんの連帯と団結の絆の強さと、原発建設反対で30年近く毎週反対デモを継続している姿に感動しました。

川内原発増設反対運動はどうだろうか、自らの運動への参加と行動を反省させられました。

《記念講演》

『新保守主義が強まる日本政府と野田政権をどう見るか』

講師：佐高 信氏（作家・評論家・週刊「金曜日」編集長）

9時15分から、記念講演として、佐高信さん（作家・評論家）の講演が行われました。現在の野田政権の現状など、オフレコも含め現在の世相についての講演でした。



少数派こそ真理がある

水俣病の原田さんが亡くなった。彼は患者に引付きすぎると言われていたが、患者に寄り添わないと見えないものもある。ある患者が「私があれば水俣の魚を食ったのでお腹の子供も必ず水俣病になっている」と言われてそうになった。弱者に平等とは、5:5ではあり得ない7:3のかまえて望まないといけない。

今までの原発反対派の虐待のされ方を見れば、いまはじめて平等なのではないか？少数派にこそ真理があるのではないか？最初はチンソ労組は会社は関係ないと言っていたが、関係がはっきりしたら労組の大会で「恥宣言」を出した。今こそ電機労連は「大恥宣言」を出すべきである。しかし、電機労連は民主党議員に脱原発でないかどうかの踏み絵を踏ませている。

「自民党らしさ出てきた民主党」との川柳がある

自民党と民主党の違いはあまりない。たとえ政権交代しても変わりはない

小選挙区制では立候補者が世論にコントロールされていた→ちっぽけな議員が増えた(小泉チルドレン、小沢ガール) このことは、自身の政治信条等とは関係なく選挙区の 80%の民意をくみとらないと当選できない現実「風に振り回され自分の思いを言えば当選できない」小選挙区制への攻撃

結果、新自由主義というすべて競争による社会がつくられた、すべて会社化・競争化とし、公(パブリック)を敵視する。競争社会(新自由主義)にするための障害は公であった。国鉄の民営化、郵政の民営化に反対することで公務員の存在意義を再確認できていた。公務員の存在意義を再確認できていた。公務員の存在意義を再確認できていた。

新保守主義(橋下徹について)

—橋下は地方分権を主張しながら道州制も主張する矛盾—

3. 11 東日本大震災で見えてきたもの・・・市町村合併で大きくなった地域で被害状況の把握が遅れ、結果救援も遅れてしまった昔ならどこの爺さんとはか婆さんとはか地域で判っていた、しかし合併交付金とか合併債とかに踊らされて必然性のない合併であった。大きくなるほど見えにくくなる。この結果が今回の東日本大震災の結果である。

上関のDVDをみられたと思うが、女性が動かないと運動は進まない。大分佐伯では「負けた負けたワハハ」で運動を進めている。この会場で

《各県からの報告・まとめ》

鹿児島: 川内原発建設反対の報告(山崎事務局長)と馬毛島FCLP移転反対の報告(大石熊毛ブロック副代表)がされました。山崎事務局長: 向原よしたかさんが脱原発で知事選に出馬した。①1000万人署名 61.9%。②川内原発3号機増設反対署名では、全世帯の45,971件の半数近い20,509世帯を訪問し、2012年2月10日13,504筆を薩摩川内市長に提出した。③脱原発講座を今年12回から16回までの5回の講座を開催。④脱原発カンパの取り組みで94万3468円を集約。⑤9.11脱原発アクション鹿児島集会では1,300人参加。⑥川内原発係わる再稼働反対申入書を30K圏内8市町に申し入れた。⑦原発なくそう九州川内訴訟1,114人の原告団で鹿児島地裁に提訴した。

鹿児島県護憲平和フォーラム情報 第14号 2012年7月2日発行 (5面)

選挙区制である限り起こり続ける問題で、最低でも中選挙区に変えないと弱者の声が政治に反映されない。

河野洋平が総裁の時「中選挙区に変えなきゃならない。小選挙区では政治家がダメになる」と発言。小選挙区制での議員が多いというのが今の民主党の一番の問題である。

在意義とは、競争社会の生み出した「格差」を少なくすることで、それをおこなうのが「政治」である。損益ばかりにしばられていたら公(パブリック)は存在しない。それなら警察・消防が赤字とは騒がない。JR・郵政・公務員もパブリックである。

も女性は一入である。今までは1000人の集会を計画し800人集まれば「これで良い」の運動をやっていたのでは、これからの運動は、“雨宮処凛”に聞け、国内全原発停止の集会に使用許可書は300人位だろうと出したが、結果は10,000人を超えた。出入り自由・リズムあり運動を楽しんでいる。年寄りからは後からついて行けば良い。

最後に私の本『週刊金曜日』を読んでください(『原発文化人50人斬り』など等)。

大石熊毛ブロック副代表: 馬毛島へのFCLP移転反対署名、217,417筆を全国からの協力で達成できた。現地では60%を超えることができた。ここまで来ても、現地では、アメを期待する部分もある。5.17西日本新聞で米軍・自衛隊・馬毛島現地視察が報道された。これに対して陸上・海上から抗議行動を準備している。

宮崎: 2/29、1000万人署名、5地区が達成、3地区が未達成。5/31には全地区が達成できた。

大分: 米軍の実弾射撃訓練で155ミリ砲の訓練のみと言っていたが、外の実弾訓練もやっている防衛省と県のやりとりでは話にならない。テロ以降詳細は伝えられないとなっている

佐賀：コンパクトにまとまった地区である。東部は鳥栖を中心に労働運動の拠点である。西部は玄海原発のあるところ専従体制から非専体制になりいろいろ悩みながら運動をやっている。今回の九州ブロック開催がよかった。

まとめ

前海九州ブロック連絡責任者：今後もこの交流会を続けていきたい。佐高さんからあつ

たが、女性に参加してもらいたいし若者も集めたい10名からの発言があった。7・8・9・10月重要な月である。脱原発の法案作りに各県選出の国会議員を紹介して欲しい。事故多発のオスプレイはもうどうにもならない。8月18日「日出生台日米合同訓練」、9月9日「川内原発反対集会」のとりくみの提起がありました。

【第35回九州ブロック原水禁・原爆被害者活動交流集会】

ようこそ鹿児島へ

去る6月16日(土)～17日(日)に、第35回九州ブロック原水禁・原爆被害者交流集会在、鹿児島市の東急インで開催されました。当日は豪雨も予想され交通遮断など心配されましたが、ほぼ予定通り開催することが出来ました。

猪鹿月弘行副議長(鹿児島県原水禁)の司会で、冒頭沖縄本土復帰40年を迎え全戦没者への追悼の意をこめて「黙祷」を捧げてから開会しました。

まず、主催者を代表し川野浩一(原水禁国民会議議長・長崎県原水禁顧問)さんが、九州各県の原水禁のとりくみへのお礼を述べ、脱原発について、野田総理は「国民のくらし

を守る」と述べ、大飯原発再稼働を認めた、私たちはお金よりいのちが大事です。野田総理は国民のいのちが大事とは言わない安全性について何で政治判断が出来るか強い怒りを感じると挨拶し、「被爆体験者訴訟」に触れ、近いうちに判決が出る。勝利することで福島に被曝者についても救われることになるだろうと述べました。

続いて、荒川議長(鹿児島県原水禁)が、参加者の皆さんに歓迎のあいさつを述べました。そして同じく地元の今村鉄夫会長(鹿児島県原爆被爆者協議会)から、鹿児島市の観光案内などユーモアを交えて歓迎の挨拶がありました。



原水禁鹿児島県民会議荒川議長



原爆被爆者鹿児島県協議会今村鉄夫会長



原爆被爆者二世の会大山正一会長



大分県被爆者団体協議会奥城和海会長

《記念講演》

『被爆と被曝—福島との連帯』(テーマ)

講師：振津かつみさん (医師、ウラン兵器禁止を求める国際連合運営委員)

記念講演では、振津かつみさんから、「被爆と被曝—福島との連帯」というテーマで講演がありました。講演の要旨 (一部省略あり) を報告します。

医者として被爆者と接し、非核運動へ

私は、兵庫に居住し主に大阪の病院で医者(内科)をしているときに、仕事として原爆の被爆者の診断にたずさわってきました。被爆者はそれぞれの被爆体験があり、それぞれ違う課題をもっています。被爆者の皆さんから話を聞く中で、被爆者が差別されてきたことや被爆者であるがゆえに苦しみ悩みを抱えています。被爆者

の課題はまだまだ多いと感じています。被爆の問題は、放射能の問題や爆弾の「爆」や曝露の「曝」がありますが、原爆被害者だけでなく、チェルノブイリのヒバクシャとも 20 年間かかわって運動をし、核使用の問題では劣化ウラン弾の使用禁止運動にもかかわってきました。

核の開発・利用で、新たなヒバクシャ



講師：振津かつみさん (医師)

核開発・核利用は、差別と抑圧の上に成り立つ

システムで、そこに働く下請け労働者や先住民など社会・経済的弱者に危険が集中するシステムになっている。「人類と核は共存できない」、核の軍事利用も「平和/商業利用」も放射能汚染とヒバクをもたらしている。原水禁運動が一貫して主張してきたとおりとなっている。

3.11 東日本大震災での福島原発事故で、新たな放射能汚染とヒバクをもたらす結果となり、原発事故を止められなかった。今後、その総括の上に新たな運動の構築が求められています。

フクシマ原発事故は「人災だ！」

地震の多発する日本で、原発事故の危険性を訴えてきたが、そのとおりとなった。しかし、政府と電力会社は「安全だ」と豪語し、これまで原発推進を続けてきたもので、結果起きた事故でありフクシマ事故は「人災」です。3.11 フクシマ事故から 1 年が経って、現地では問題(避難・移住・除染・子どもたちの問題・食品の汚染問題など等)が山積みとなって未解決のままです。一方、フクシマ以外の地域では早くも「風化」が懸念されています。政府・電力会社は原発の再稼働を推進するため、大飯原発の運転再

稼働を強行しようとしています。今こそ、ヒロシマ、ナガサキとフクシマと連帯した行動が必要です。

《フクシマ原発、その後 (省略)》

- ・チェルノブイリは、広島型原発の 800 発分、フクシマは 168 発分 (但し、昨年夏の公式発表)
- ・「放射線管理区域」に相当するレベルの放射能汚染地が、福島県の半分以上、さらには県外の広範囲に広がっている。そこに 400 万人にのぼる人々が暮らしている。チェルノブイリ

- ・事故後 1 年経過、フクシマの被災地の問題は多岐にわたり、ヒバクの問題に加え、家族や地域社会のつながり、生活基盤そのものが大きく損なわれています。
《チェルノブイリとの比較・健康管理問題・ヒバク現状(省略)》
- ・フクシマの事故後「100 ミリシーベルト以下では明らかなガンの増加はみられない」と、繰り返し「宣伝」しているが、100 ミリシーベルトは、広島の高野原から約 1.8 キロのガンマ線空間線量に相当する。
- ・低線量ヒバクの健康リスクについて、原爆被爆者の調査では、100 ミリシーベルト以下でも

ガンのリスクは有意に増加している。ヒバクによるガン死亡のリスクには「しきい値」がないことが明らかになった。1 万人・シーベルトの集団線量で、1 人が生涯のうちにガン・白血病に罹患、など等。

- ・昨年 10 月、フクシマ事故後新たに文部科学省から「放射線教育副読本」が出された、全国で配布されている。これは ICRP（国際放射線防護委員会）の被曝リスク評価を子どもたちに教える内容であるが、フクシマ事故やチェルノブイリ事故についての記載は一切ない。運動の力で副読本を撤回させる必要がある。

国と東電は救済の責任をとれ！

国の責任で、フクシマ事故の被災者、事故処理作業労働者の健康と命を守るための施策を早急に求めるべきです。全ての原発事故被災者に「健康手帳」を交付し、健康管理、医療保障、生活保障を早急に行うよう求め、さらに、法的根拠のある国家補償の実現を目指すことが大事です。

ヒロシマ、ナガサキの被爆者の運動の経験をフクシマで生かすことが大事であり、全国の仲間からの支援と連帯で国家補償の実現をめざすことが大事です。そしてフクシマの問題は、全国の問題として、脱原発の運動を強化しましょう。

原爆被害者の課題を 2 人から報告

記念講演後、2 件の報告があり、『「被爆者手当」創設問題など被爆団体の課題』と題して、大分県鹿児島県原爆被爆二世の会大山正一会長から報告がありました。

奥城会長は、①国家補償の「被爆者援護法」制定をめざす現行法制改正の要求、②原爆症認定制度のあり方に関する日本被団協の提言「放射線起因性の偏重から原爆による全傷外の手当てを一本化する補償の要求」について、提起を

県被爆者団体協議会の奥城和海会長と、『被爆二世・三世の課題と組織化の歩み』と題して、いただきました。大山会長は、鹿児島での二世の会設立の経過や親の被爆者との連携で組織化をとりくんできた経験を報告し、九州ブロックでも被爆二世の皆さんとの交流の中で組織化が進んできていること。そして被爆者の高齢化で、今後の被爆体験の継承が重要になってきていることの報告がありました。

屋台村でも交流会

18 時から、参加者全員での交流会となり、司会は大山二世の会会長と、池田さんの司会で始まり、各県から参加者の紹介があり、恒例のカラオケ大会となりました。交流会集会后は、ホテルの隣りに今年 5 月に創設された「屋台村」で各県の皆さんも 2 次会を楽しんでいたようです。

2 日目は、早朝 8 時 30 分から、NHK 九州フロア
鹿児島県護憲平和フォーラム情報

ンティア「原発事故に備えて」（玄海原発の防災問題）の DVD 上映があり、その後各県の被爆者団体からの報告があり、最後に原水禁九州ブロック山崎博事務局長（原水禁鹿児島事務局長）の 2 日間の「まとめ」報告で終了しました。2 日間で、延べ 170 名の参加となりました。鹿児島県からは 50 名を超える参加となりました。

7月の主な行事予定表

- 7月1日(日) 9時30分 部落解放同盟県連合大会(県自治会館)
7月1日(日)～2日(月) 高江ヘリパット工事機材搬入現地阻止行動(沖縄)
7月3日(火)14時 第98回九州ブロック事務局長会議(沖縄)
7月4日(水) 9時 第104回原水禁九州ブロック県代(沖縄)
7月8日(日) 鹿児島県知事選挙投開票
7月9日(月)18時30分 社民党「若者の雇用」学習交流会(社民党県連合)
7月10日(火) 奄美地区非核平和行進 [奄美市・龍郷町]
7月11日(水) 奄美地区非核平和行進 [大和村・瀬戸内町・宇検村]
7月14日(土)14時 鹿児島ブロック護憲平和フォーラム総会(日置市・十八番館)
16時 奄美ブロック護憲平和フォーラム総会(奄美ポートタワーH)
7月16日(月)12時30分 さようなら原発全国集会(東京・代々木公園B地区)
7月17日(火)～20日(金) 原爆と人間展(鹿児島市役所市民ギャラリー)(4日間)
7月18日(水) 18時～ 鹿児島県原水禁・県護憲平和フォーラム拡大幹事会
7月21日(土)10時 社民党鹿児島県連合大会(ジェイドガーデンパレス)
7月28日(土)13時 原水禁世界大会福島大会(福島市)
14時 県地方自治研究所研究会(労館)

8月の主な行事予定表

- 8月4日(土)～6日(月) 被曝67周年原水禁世界大会・広島大会
8月7日(火)～9日(木) 被曝67周年原水禁世界大会・長崎大会
8月15日(水) 8.15不戦を誓う日の集会 10:00～ 鹿児島市・黎明館

《緊急課題》

MV-22オスプレイ導入に絶対反対



米軍は、普天間基地に「未亡人製造機」と酷評されるMV-22オスプレイを配備し、鹿児島はもとより日本全国の空を低空飛行訓練に使おうとしています。オスプレイは、これまで6度の事故で既に36人が死亡しているのです。このような欠陥機が鹿児島の空を、日本の空を飛びまわること許してはなりません。断固反対の闘いを強化しよう！！